

審 議 事 項

件名・議案	提案者	資料 (頁)	提案理由等 (※シンポジウム等、後援関係については概要を記載)	説明者	根拠規定 等
I 審議事項					
1. 規則関係					
提案1	幹事会に関するビデオ会議実施の規定の廃止		B(7-8)	当該申合せから今日までの間の状況の変化等を鑑み、当該申合せを廃止する必要があるため。	—
2. 委員会関係					
提案2	(幹事会附置委員会) 危機対応科学情報発信委員会 (1)委員会及び分科会委員の決定(追加3件)	危機対応科学情報発信委員会委員長	B(9)	危機対応科学情報発信委員会における委員会及び分科会委員を決定するため。	高橋第三部幹事 内規12条、18条
提案3	(分野別委員会合同分科会) (1)第二部合同分科会を設置すること	第二部部長	B(11)	第二部大規模感染症予防・征圧体制検討分科会を設置するため。	第二部部長 会則第27条1項、第79回幹事会決定「●部が直接統括する分野別委員会合同分科会について」
3. 提言等関係					
提案4	提言「子ども・妊婦への受動喫煙対策と禁煙支援をさらに充実させるべきである」について日本学術会議会則第2条第3号の「提言」として取り扱うこと	健康・生活科学委員会委員長、歯学委員会委員長	C(1-26)	健康・生活科学委員会・歯学委員会合同脱タバコ社会の実現分科会において、提言を取りまとめたので、関係機関等に対する提言として、これを外部に公表したため。 ※第二部査読	健康・生活科学委員会・歯学委員会合同脱タバコ社会の実現分科会秋葉澄伯委員長、井上真奈美幹事 内規3条1項

提案5	提言「ゲノム編集技術のヒト胚等への臨床応用に対する法規制のあり方について」について日本学術会議会則第2条第3号の「提言」として取り扱うこと	科学者委員会委員長	C(27-68)	科学者委員会ゲノム編集技術に関する分科会において、提言を取りまとめたので、関係機関等に対する提言として、これを外部に公表したいため。 ※科学者委員会査読	科学者委員会ゲノム編集技術に関する分科会 武田洋幸委員長、高山佳奈子副委員長	内規3条1項
-----	---	-----------	----------	---	---	--------

4. 協力学術研究団体関係

提案6	日本学術会議協力学術研究団体を指定すること	科学者委員会委員長	B(13-15)	日本学術会議協力学術研究団体への新規申込のあった下記団体について、科学者委員会の意見に基づき、指定することとしたい。 ①九州公私立大学音楽学会 ②行動経済学会 ③人間福祉学会 ④日本アイルランド協会 ⑤一般社団法人日本フォレンジック看護学会 ⑥日本作業科学研究会 ⑦一般社団法人日本金融・証券計量・工学学会 ⑧防災学術連携体 ⑨地球環境史学会 ※令和2年2月27日現在2,062団体（上記申請団体を含む）	三成副会長	会則36条
-----	-----------------------	-----------	----------	--	-------	-------

5. 国際関係

提案7	令和2年度代表派遣について (1)代表派遣実施計画の決定 (2)実施計画に基づく4-9月期の会議派遣者の決定	会長	B(17-23)	令和2年度代表派遣について、代表派遣実施計画の決定をするとともに、実施計画に基づき4-9月期の会議派遣者を決定する必要があるため。	武内副会長	(1)国際交流事業に関する内規第18条 (2)同内規第19条2項
提案8	令和元年度代表派遣について、実施計画の変更をすること	会長	B(25)	令和元年度代表派遣について、実施計画の変更を決定する必要があるため。	武内副会長	国際交流事業に関する内規第21条2項

提案9	令和3年度共同主催国際会議候補の追加について	会長	B(27)	令和3年度共同主催国際会議について、国際委員会国際会議主催等検討分科会の審議に基づき、昨年度保留とした会議の中から、以下の2件を追加の候補として決定したい。 ・国際計測連合第23回世界大会 ・第22回国際栄養学会議 ※既に候補として決定した5件とともに閣議口頭了解（令和2年度5月頃予定）をもって正式決定 ※国際委員会2月17日決定、同国際会議主催等検討分科会1月23日決定	武内副会長	国際交流事業に関する内規第34条
提案10	令和2年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針の決定について	会長	B(29-30)	令和2年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣について基本方針を決定する必要があるため。	武内副会長	国際交流事業に関する内規第52条
提案11	令和2年度アジア学術会議に関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針の決定について	会長	B(31-32)	令和2年度アジア学術会議に関する国際会議等への代表者の派遣について、基本方針を決定をする必要があるため。	武内副会長	国際交流事業に関する内規第52条準用
提案12	令和元年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表派遣の変更について	会長	B(33)	令和元年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表派遣の変更を決定する必要があるため。	武内副会長	国際交流事業に関する内規第55条
提案13	「持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2019」の延期について	会長	—	「持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2019」は今年度開催を見送り、来年度の早いうちに同様な内容で開催することとしたい。	武内副会長	国際交流事業に関する内規第55条

6. 学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等
【令和2年度第1四半期】

提案14	「学術振興に寄与する研究評価のあり方——日本学術会議提言に向けて（仮）」	科学者委員会委員長	B(37-38)	主催：日本学術会議 日時：令和2年5月24日（日） 13:00～18:00 場所：日本学術会議講堂	—	内規別表第1
提案15	「オープンサイエンスの深化と推進に向けて（仮）」	オープンサイエンスの深化と推進に関する検討委員会委員長	B(39-40)	主催：日本学術会議 日時：令和2年6月3日（水） 時間未定 場所：日本学術会議講堂	—	内規別表第1

7. その他のシンポジウム等

提案16	公開シンポジウム 「共に生きるカー福祉教育のあり方を問う」	社会学委員会委員長	B(41-42)	主催：日本学術会議社会学委員会社会福祉学分科会 日時：令和2年5月16日（土）14：00～17：00 場所：東洋大学（予定） ※第一部承認	—	内規別表第1
提案17	公開シンポジウム 「比較の中のアジアの行政」	政治学委員会委員長	B(43)	主催：日本学術会議政治学委員会行政学・地方自治分科会 日時：令和2年5月23日（土）9：30～11：30 場所：岡山大学（津島キャンパス）文学部・法学部・経済学部講義棟20番講義室 ※第一部承認	—	内規別表第1
提案18	公開シンポジウム 「現代社会とアディクション」	基礎医学委員会委員長、臨床医学委員会委員長	B(45-46)	主催：日本学術会議基礎医学委員会神経科学分科会、日本学術会議臨床医学委員会アディクション分科会、脳とこころ分科会 日時：令和2年4月3日（金）13：30～17：30 場所：日本学術会議講堂 ※第二部承認	—	内規別表第1
提案19	公開シンポジウム 「チバニアン、その学術的な意義」	地球惑星科学委員長	B(47-48)	主催：日本学術会議地球惑星科学委員会IUGS分科会 日時：令和2年4月6日（月）13：00～17：00 場所：日本学術会議講堂講堂、他会議室1室 ※第三部承認	—	内規別表第1
提案20	公開シンポジウム 「放棄農地を蘇らせる自然再生」	統合生物学委員会委員長、環境学委員会委員長	B(49-50)	主催：日本学術会議統合生物学委員会・環境学委員会自然環境保全再生分科会 日時：令和2年5月22日（金）14：00～18：00、5月23日（土）10：30～12：30 場所：知勝院 玉叢庵（〒021-0102 岩手県一関市萩荘栃倉73-193）および近隣の久保川イーハトーブ自然再生事業地 ※第二部、第三部承認	—	内規別表第1
提案21	公開ワークショップ 「公民学連携による地域将来像の構想：豊橋の未来をデザインする100人ワークショップ（予定）」	若手アカデミー代表	B(51-53)	主催：日本学術会議若手アカデミー 日時：令和2年7月11日（土）13：00～17：30 場所：イノチオホール（愛知県豊橋市向草間町字北新切95）	—	内規別表第1

7. 後援

<p>提案22</p>	<p>国際会議の後援をすること</p>	<p>会長</p>	<p>—</p>	<p>以下の国際会議において、後援の申請があり、国際委員会において審議を行ったところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。</p> <p>①第5回斜面防災世界フォーラム 主催：第5回斜面防災世界フォーラム組織委員会 期間：令和2年11月2日(月)～11月9日(月) 場所：国立京都国際会館（京都府京都市）、広島県、長崎県、熊本県 参加予定国数：59か国・地域 申請者：第5回斜面防災世界フォーラム組織委員会委員長 佐々 恭二 ※国際委員会2月17日承認予定、同国際会議主催等検討分科会2月12日承認</p>	<p>武内副会長</p>	<p>国際交流事業に関する内規第39条</p>
<p>提案23</p>	<p>国内会議の後援をすること</p>	<p>会長</p>	<p>—</p>	<p>以下の会議について、後援の申請があり、関係する部に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。</p> <p>①日本マイクロカウンセリング学会令和元年度学術研究集会 主催：日本マイクロカウンセリング学会 期間：令和2年3月1日(日) 場所：アルカディア市ヶ谷私学会館(東京都千代田区) 参加予定者数：約70名 申請者：日本マイクロカウンセリング学会会長 福原 眞知子 ※第一部承認</p> <p>②第6回国際北極研究シンポジウム (ISAR-6) 主催：北極環境研究コンソーシアム 期間：令和2年3月2日(月)～6日(金) 場所：一橋大学一橋講堂(東京都千代田区) 参加予定者数：約350名 申請者：北極環境研究コンソーシアム事務局 児玉 裕二 ※第三部承認</p> <p>③日本天文学会ジュニアセッション 主催：公益社団法人日本天文学会 期間：令和2年3月19日(木) 場所：筑波大学筑波キャンパス(茨城県つくば市) 参加予定者数：約400名 申請者：公益社団法人日本天文学会会長 梅村 雅之 ※第三部承認</p>	<p>会長</p>	<p>後援名義使用承認基準3(2)ウ</p>

④「気候非常事態宣言に建築分野はどう対応すべきか」

主催：一般社団法人日本建築学会
期間：令和2年3月23日（月）
場所：建築会館ホール（東京都港区）
参加予定者数：約200名
申請者：一般社団法人日本建築学会会長
竹脇 出
※**第三部承認**

⑤シンポジウム「電子ジャーナル問題の解決に踏み出すために一オールジャパンとしての電子ジャーナルへの対応を考える一」

主催：国立大学図書館協会
期間：令和2年3月27日（金）
場所：東京大学大学院理学研究科・理学部小柴ホール（東京都文京区）
参加予定者数：約170名
申請者：国立大学図書館協会会長 熊野純彦
※**第一部、第二部、第三部承認**

⑥土と肥料の講演会

主催：一般社団法人日本土壌肥料学会
期間：令和2年5月9日（土）
場所：東京大学山上会館（東京都文京区）
参加予定者数：約100名
申請者：一般社団法人日本土壌肥料学会会長 波多野 隆介
※**第二部承認**

II その他

件名	資料(頁)
1. 今後の総会及び幹事会開催予定 次回幹事会は3月26日(木)13時30分開催	D (1)

提案 1

幹事会におけるビデオ会議の実施についてを廃止する決定（案）

（ 令 和 年 月 日 ）
日本学術会議第 回幹事会決定

幹事会におけるビデオ会議の実施について（平成 28 年 6 月 24 日日本学術会議第 230 回幹事会申合せ）は、廃止する。

附 則

この決定は、決定の日から施行する。

廃止の理由について

日本学術会議の会議体のうち、幹事会、委員会、分科会、小分科会及び小委員会についてはビデオ会議ができることとされているが（「ビデオ会議の実施について」（平成24年12月21日日本学術会議第167回幹事会決定）第2条）、そのうち幹事会については、幹事会申合せによって、ビデオ会議の実施を1回の幹事会につき2箇所までとする等制限している（「幹事会におけるビデオ会議の実施について」（平成28年6月24日日本学術会議第230回幹事会申合せ））。

幹事会の審議時間を確保する観点から、本申合せを廃止することとしたい。

（参考1）ビデオ会議の実施について（平成24年12月21日日本学術会議第167回幹事会決定）（抜粋）

- 2 ビデオ会議は、幹事会、委員会、分科会、小分科会及び小委員会（以下「委員会等」という。）において実施することができる。

（参考2）幹事会におけるビデオ会議の実施について（平成28年6月24日日本学術会議第230回幹事会申合せ）

幹事会におけるビデオ会議の実施に当たっては、ビデオ会議の実施について（平成24年12月21日日本学術会議第167回幹事会決定）に基づき、以下のとおり運用を行うこととする。

- 1 幹事会については、構成員が日本学術会議庁舎に一堂に会することを原則とし、特段の事情があると議長が認める場合に限り、ビデオ会議ソフト（スカイプ等）を用いて参加できることとし、一回の幹事会につき2箇所からの参加を上限とする。
- 2 ビデオ会議ソフト（スカイプ等）での参加を申し出ることができる者は、勤務地が関東地方（茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都及び神奈川県）の外であって、勤務先の状況に照らして 日本学術会議庁舎に集合することが困難な特段の事情がある場合に限りることとする。
- 3 ビデオ会議ソフト（スカイプ等）での参加希望者が2箇所を上回った場合は、議長が勤務先の状況等の特段の事情を考慮して調整を行うこととする。

○委員の決定（追加3件）

(危機対応科学情報発信委員会)

氏名	所属・職名	備考
鎌倉 光宏	慶應義塾大学名誉教授	連携会員

(危機対応科学情報発信委員会自然災害情報発信分科会)

氏名	所属・職名	備考
中田 節也	国立研究開発法人防災科学技術研究所火山研究推進センター長	連携会員

(危機対応科学情報発信委員会医療・健康リスク情報発信分科会)

氏名	所属・職名	備考
鎌倉 光宏	慶應義塾大学名誉教授	連携会員

部が直接統括する分科会の設置について

分科会等名： 第二部大規模感染症予防・制圧体制検討分科会

1	担当部及び関係委員会名	第二部
2	委員の構成	15名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	<p>大規模感染症予防・制圧（流行の予防、大規模感染症流行への即応を含む）には、最悪の事態を含めて事前に想定される事態について十分な検討を行い、対応するための体制を作っておく必要がある。</p> <p>米国では、国民を感染症の脅威から守る行政組織として1946年に設立され、その後改組されて現在に至っている米国CDC (Centers for Disease Control and Prevention) が、国民の健康・福祉に脅威となる感染症流行に際して、国内外を問わず現地で調査を行い、対策立案・実施、助言などを行っている。</p> <p>本分科会では、米国の先行例を参考としつつ、感染症の大規模流行を予防し、流行に即応して大規模流行を引き起す感染症を制圧するために、必要な体制の整備等についての現実的な提言に向けた検討を行う。</p>
4	審議事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 過去および将来の大規模感染症流行による公衆衛生上の危機の検討 2. 大規模感染症流行予防に必要な組織とその連携 3. 国民の健康・福祉の脅威となりうる感染症流行に迅速・適切に対応するために必要な組織とその連携 4. 大規模流行を引き起す感染症を制圧するために必要な組織とその連携 5. 大規模感染症予防・制圧体制に必要な国際連携と協働 6. その他、第二部幹事会が必要と考える大規模感染症流行に関する事項 <p>に係る審議に関すること</p>
5	設置期間	幹事会承認日～令和2年9月30日
6	備考	※新規設置

日本学術会議協力学術研究団体への新規申し込み団体の概要

	団体名	概要
1	九州公私立大学音楽学会 (HP 無し)	本団体は、九州の公立・私立大学、短期大学に在籍する音楽担当教員からなり、大学の垣根をこえて協調し、研究活動や音楽教育を行う情報交流も含めた総合的な研究の場として設立されたものである。
2	行動経済学会 (http://www.abef.jp/)	本団体は、現在の経済学が直面している隘路を乗り越えるには、人間が経済社会の中で実際にどのように行動しているのかを研究する科学、行動経済学の発展が不可欠とし、日本における行動経済学研究の促進を図り、その研究に関心のある広い分野（経済学、ファイナンス会計、経営、マーケティング、心理学、政治学など）の研究者らの核となる場の提供を目的とする。
3	人間福祉学会 (http://www.shwb.jp)	本団体は、これからの社会福祉の目指す方向の1つは利用者本位の制度の確立である「人間福祉」が重要なキーワードとし、「人間福祉」とは何か、についての共通理解は未だ確立しているとは言いがたいため、「人間福祉」についての関心を広く喚起し、幅広い多様な分野からの研究と実践を共有し「人間福祉」を目指すものである。
4	日本アイルランド協会 (http://japan-ireland.jugem.jp/)	本団体は、日本とアイルランドの親善・交流・相互理解を図る目的で1963年に設立された。現在はアイルランドに関する学術研究の向上を主たる目的としながら、併せてアイルランドの文化や歴史への関心を広めるための活動を行っている。

5	<p>一般社団法人日本フォレンジック 看護学会 (http://jafn.jp/)</p>	<p>フォレンジック看護とは暴力と虐待の被害者と加害者への特別なケアを指す。本団体は、人の生涯に寄り添う看護師として、国際的なフォレンジック看護の知見および日本での実践を土台にして学問領域として発展させることが必要とし、暴力の防止とケアに向けたフォレンジック看護に関する臨床・教育・研究の充実を目的とするものである。</p>
6	<p>日本作業科学研究会 (http://www.jssso.jp/)</p>	<p>本団体は、作業科学の研究や教育においての最新のトピックの普及、人の作業に焦点を当てた学際的な研究の促進、作業科学に関する研究・教育・政策をめぐる様々なアイデアを、国内または国際的レベルで交換していくことを目的とするものである。</p>
7	<p>一般社団法人 日本金融・証券計量・工学学会 (http://www.jafee.gr.jp/index.html)</p>	<p>本団体は、金融資産価格や実務の金融的意思決定に関わる実証的領域を研究対象とする産学官にわたる多くの研究者・分析者が、意見交換、情報交換、研究交流および研究発表を行う場を提供するとともに、それをつうじてこの領域を学術的領域として一層発展させ、国際的水準に高めることを目的とするものである。</p>
8	<p>防災学術連携体 (http://janet-dr.com/index.html)</p>	<p>東日本大震災を契機に、日本学術会議の土木工学・建築学委員会が幹事役となり、「東日本大震災の総合対応に関する学協会連絡会」を平成23年に設立し、30学会による学際連携を進めてきた。本団体は、この取組みをさらに発展させ、自然災害への防災減災・災害復興を対象に、より広い分野の学会の参画を得ながら、研究成果を災害軽減に役立てることを目的とする。</p>

9	地球環境史学会 (https://paleo10.org/)	本団体は、過去の地球環境変動を高い時間・空間解像度で定量的に復元し、その結果を総合的に解析することが不可欠とする。そのために多用な研究分野の研究者が一同に会し、複合的な視野から地球環境変動を論じ統合的理解を目指すものである。
---	--	--

令和 2 年度代表派遣実施計画 (案)

< 第 1 区分 >

番号	会 議 名	会 期	開催地	派遣人数
1	国際経済学協会(IEA)世界会議	2020/7/3~2020/7/7	バリ ————— (インドネシア)	1
2	国際数学連合(IMU)数学教育国際委員会総会	2020/7/12~2020/7/19	上海 ————— (中国)	1
3	第 21 回国際自動制御連盟 (IFAC) 世界会議	2020/7/12~2020/7/17	ベルリン ————— (ドイツ)	1
4	第 36 回南極研究科学委員会 (SCAR) 総会及び公開科学会議	2020/7/31~2020/8/11	ホバート ————— (オーストラリア)	1
5	国際地理学連合 (IGU) 第 34 回国際地理学会会議 (IGC) 及び執行委員会	2020/8/14~2020/8/21	イスタンブール ————— (トルコ)	2
6	第 43 回宇宙空間研究委員会 (COSPAR) 総会等	2020/8/15~2020/8/22	シドニー ————— (オーストラリア)	2
7	国際結晶学連合 (IUCr) 総会等	2020/8/22~2020/8/30	プラハ ————— (チェコ共和国)	2
8	国際理論応用力学連合(IUTAM)総会	2020/8/23~2020/8/28	ミラノ ————— (イタリア)	1
9	第 33 回国際電波科学連合 (URSI) 総会	2020/8/29~2020/9/5	ローマ ————— (イタリア)	2
10	国際純粋・応用物理学連合 (IUPAP) 第 30 回総会	2020/10/12~2020/10/14	北京 ————— (中国)	1
11	2020 海洋研究科学委員会 (SCOR) 年会	2020/10/19~2020/10/23	グアヤキル ————— (エクアドル)	2
				16

< 第 2 区分 >

番号	会 議 名	会 期	開催地	派遣人数
1	ISC アジア太平洋地域諮問会議	2020/4/6~2020/4/7	クアラルンプール ————— (マレーシア)	2
2	2020 国際薬理学連合 (IUPHAR) 執行委員会	2020/6/5~2020/6/6	ジュネーブ ————— (スイス)	1
3	国際生理科学連合 (IUPS) 2021 年大会国際プログラム委員会等	2020/8/20~2020/8/24	天津 ————— (中国)	1
4	国際土壌科学連合(IUSS)中間会議	2020/8/30~2020/9/4	グラスゴー ————— (イギリス)	2
5	アジア科学アカデミー・科学協会連合 (AASSA) 理事会	2020 年 8 月頃	未定 ————— (インド)	1
6	世界工学団体連盟 (WFEO) 拡大理事会	2020/10/26~2020/10/30	キガリ ————— (ルワンダ)	1

番号	会議名	会期	開催地	派遣人数
7	国際科学史技術史科学基礎論学会連合、科学史技術史部門 (IUHPST-DHST)、評議会	2020/12/4~2020/12/6	サンクトペテルブルク (ロシア)	1
8	太陽地球系物理学・科学委員会 (SCOSTEP) 理事会	2020/12/6~2020/12/11	サンフランシスコ (アメリカ)	2
9	世界気候研究計画(WCRP) 気候と雪氷圏 (CliC) 科学推進委員会	2020/12/7~2020/12/8	サンフランシスコ (アメリカ)	1
10	第 76 回国際地質科学連合(IUGS)理事会及び事務局会議	2021/1/25~2021/1/29	パリ (フランス)	1
11	宇宙空間研究委員会 (COSPAR) 理事会	2021/3/16~2021/3/19	パリ (フランス)	1
12	北極科学サミット週間 2021、国際北極科学委員会(IASC)評議員会	2021/3/19~2021/3/26	リスボン (ポルトガル)	1
13	第 2 回 ISC 科学における自由と責任の委員会 (CFRS)	未定	未定	1
				16

<第 3 区分>

番号	会議名	会期	開催地	派遣人数
1	第 22 回世界科学データシステム (WDS) 科学委員会会議等	2020/4/14~2020/4/17	サンパウロ (ブラジル)	1
2	G 7 Research Summit	2020/5/5	オタワ (カナダ)	1
3	GYA 総会 2020	2020/6/8~2020/6/12	コルカタ (インド)	3
4	第 28 回アジア・オセアニア生化学分子生物学連合会議 (FAOBMB) 等	2020/6/11~2020/6/13	コロンボ (スリランカ)	1
5	哲学系諸学会国際連合 (FISP) 運営委員会及び付帯コンフェランス	2020/7/8~2020/7/12	ハノイ (ベトナム)	1
6	国際宗教学宗教史学会 (IAHR) 第 22 回世界大会、理事会、国際委員会、総会	2020/8/22~2020/8/29	ダニーディン (ニュージーランド)	1
7	第 16 回国際放散虫研究集会	2020/9/10~2020/9/22	リュブリャーナ (スロベニア)	1
8	INGSA2020 政府への科学的助言に関する国際会議	2020/9/14~2020/9/18	モントリオール (カナダ)	1
9	S20 会合	2020/9/25~2020/9/26	未定 (サウジアラビア)	2
10	国際人類学民族科学連合 (IUAES) 2020 年会議	2020/10/7~2020/10/11	シベニク (クロアチア)	1
11	第 10 回国際古地震・活構造・考古地震学会議	2020/11/8~2020/11/16	オルニトス (チリ)	1

番号	会 議 名	会 期	開催地	派遣人数
12	第 14 回国際人権ネットワーク隔年総会	2020/12/8～2020/12/9	プレトリア — (南アフリカ)	1
13	世界科学フォーラム (WSF)運営委員会	2020 年 12 月頃	プレトリア — (南アフリカ)	1
14	G サイエンス学術会議 2021	2021 年 3 月頃	未定 — (イギリス)	3
15	STS フォーラム評議員会	未定	未定	1
				20

令和2年度代表派遣実施計画に基づく4-9月期の会議派遣候補者

番号	会議名称	会 期		開催地 (国)	派遣候補者 (職 名)
			計		
1	ISC アジア太平洋地域諮問会議	4月6日 ～ 4月7日	2 日	クアラルンプール (マレーシア)	植松 光夫 連携会員 (埼玉県環境科学国際センター(CESS)総長)
2	ISC アジア太平洋地域諮問会議	4月6日 ～ 4月7日	2 日	クアラルンプール (マレーシア)	澁澤 栄 第二部会員 (東京農工大学卓越リーダ養成機構特任教授)
3	第22回世界科学データシステム(WDS)科学委員会会議等	4月14日 ～ 4月17日	4 日	サンパウロ (ブラジル)	家森 俊彦 特任連携会員 (京都大学名誉教授、京都大学学術情報メディアセンター研究員)
4	G7 Research Summit	5月5日	1 日	オタワ (カナダ)	村山 泰啓 連携会員 (国立研究開発法人情報通信研究機構ソーシャルイノベーションユニット戦略的プログラムオフィス研究統括)
5	2020 国際薬理学連合(IUPHAR)執行委員会	6月5日 ～ 6月6日	2 日	ジュネーブ (スイス)	金井 好克 特任連携会員 (大阪大学大学院医学系研究科教授)
6	GYA 総会 2020	6月8日 ～ 6月12日	5 日	コルカタ (インド)	岩崎 涉 連携会員 (東京大学大学院理学系研究科准教授)
7	GYA 総会 2020	6月8日 ～ 6月12日	5 日	コルカタ (インド)	岸村 顕広 連携会員 (九州大学大学院工学研究院応用化学部門・九州大学分子システム科学センター准教授)
8	GYA 総会 2020	6月8日 ～ 6月12日	5 日	コルカタ (インド)	安田 仁奈 連携会員 (宮崎大学農学部海洋生物環境学科准教授)

番号	会議名称	会 期		開催地 (国)	派遣候補者 (職 名)
			計		
9	第28回アジア・オセアニア生化学分子生物学連合会議(FAOBMB)等	6月11日 ～ 6月13日	3 日	コロンボ (スリランカ)	菊池 章 第二部会員 (大阪大学大学院医学系研究科分子病態生化学教授)
10	国際経済学協会(IEA)世界会議	7月3日 ～ 7月7日	5 日	バリ (インドネシア)	後藤 玲子 特任連携会員 (一橋大学経済研究所規範経済学センター教授)
11	哲学系諸学会国際連合(FISP)運営委員会及び付帯コンフェレンス	7月8日 ～ 7月12日	5 日	ハノイ (ベトナム)	納富 信留 連携会員 (東京大学大学院人文社会系研究科教授)
12	第21回国際自動制御連盟(IFAC)世界会議	7月12日 ～ 7月17日	6 日	ベルリン (ドイツ)	高橋 桂子 第三部会員 (国立研究開発法人海洋研究開発機構 地球情報基盤センターセンター長)
13	国際数学連合(IMU)数学教育国際委員会総会	7月12日 ～ 7月19日	8 日	上海 (中国)	小山 正孝 連携会員 (広島大学大学院教育学研究科教授)
14	第36回南極研究科学委員会(SCAR)総会及び公開科学会議	7月31日 ～ 8月11日	12 日	ホバート (オーストラリア)	伊村 智 特任連携会員 (大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 国立極地研究所副所長、教授)
15	国際地理学連合(IGU)第34回国際地理学会議(IGC)及び執行委員会	8月14日 ～ 8月21日	8 日	イスタンブール (トルコ)	氷見山 幸夫 連携会員 (北海道教育大学名誉教授)
16	国際地理学連合(IGU)第34回国際地理学会議(IGC)	8月17日 ～ 8月21日	5 日	イスタンブール (トルコ)	小口 高 連携会員 (東京大学・空間情報科学研究センター教授)

番号	会議名称	会 期		開催地 (国)	派遣候補者 (職 名)
			計		
17	第 43 回宇宙空間研究委員会 (COSPAR) 総会及び顕彰委員会	8 月 13 日 ～ 8 月 19 日	8 日	シドニー (オーストラリア)	新井 康平 特任連携会員 (佐賀大学名誉教授、佐賀大学大学院工学系研究科客員研究員)
18	第 43 回宇宙空間研究委員会 (COSPAR) 総会及び惑星保護 パネル	8 月 15 日 ～ 8 月 22 日	8 日	シドニー (オーストラリア)	中村 昭子 特任連携会員 (神戸大学大学院理学研究科准教授)
19	国際生理科学連合(IUPS)2021 年大会国際プログラム委員会 等	8 月 20 日 ～ 8 月 24 日	5 日	天津 (中国)	久保 義弘 連携会員 (自然科学研究機構生理学研究所教授)
20	国際宗教学宗教史学会 (IAHR) 第 22 回世界大会、理 事会、国際委員会、総会	8 月 22 日 ～ 8 月 29 日	8 日	ダニーディン (ニュージーラン ド)	藤原 聖子 第一部会員 (東京大学大学院人文社会系研究科教授)
21	国際結晶学連合(IUCr)総会等	8 月 22 日 ～ 8 月 30 日	9 日	プラハ (チェコ共和国)	菅原 洋子 第三部会員 (北里大学名誉教授)
22	国際結晶学連合(IUCr)総会等	8 月 22 日 ～ 8 月 30 日	9 日	プラハ (チェコ共和国)	藤間 祥子 特任連携会員 (奈良先端科学技術大学院大学准教授)
23	国際理論応用力学連合 (IUTAM)総会	8 月 23 日 ～ 8 月 28 日	6 日	ミラノ (イタリア)	佐野 理 特任連携会員 (東京農工大学名誉教授)

番号	会議名称	会 期		開催地 (国)	派遣候補者 (職 名)
			計		
24	第 33 回国際電波科学連合 (URSI)総会	8月29日 ～ 9月5日	8 日	ローマ (イタリア)	八木谷 聡 連携会員 (金沢大学理工研究域教授)
25	第 33 回国際電波科学連合 (URSI)総会	8月29日 ～ 9月5日	8 日	ローマ (イタリア)	大貫 進一郎 特任連携会員 (日本大学理工学部電気工学科教授)
26	国際土壌科学連合(IUSS)中間 会議	8月30日 ～ 9月4日	6 日	グラスゴー (イギリス)	小崎 隆 連携会員 (愛知大学国際コミュニケーション学部教授、京都大学名誉教授)
27	国際土壌科学連合(IUSS)中間 会議	8月30日 ～ 9月4日	6 日	グラスゴー (イギリス)	波多野 隆介 特任連携会員 (北海道大学大学院農学研究院教授)
28	第 16 回国際放散虫研究集会	9月10日 ～ 9月22日	13 日	リュブリャーナ (スロベニア)	松岡 篤 特任連携会員 (新潟大学教育研究院自然科学系教授)
29	INGSA2020 政府への科学的 助言に関する国際会議	9月14日 ～ 9月18日	5 日	モントリオール (カナダ)	新福 洋子 特任連携会員 (京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻 家族看護学講座准教授)

令和元年度代表派遣実施計画の変更について

以下のとおり、令和元年度代表派遣実施計画の変更を行う。

	会議名称	会 期	開催地 (国)	派遣候補者 (職名)	内 容
1	G サイエンス学術会議 2019 共同声明手交式	5 月頃	パリ (フランス)	未定	代表派遣の取りやめ ※手交式典の開催なし
2	アジア科学アカデミー・科学協会連合 (AASSA) 地域ワークショップ	6 月頃	コロンボ (スリランカ)	未定	代表派遣の取りやめ ※AASSA 理事会 (9 月・韓国) と合同開催
3	地球大気化学国際協同研究計画 (IGAC) 研究推進委員会 (SSC) 年次会合	10 月頃	メキシコシティ (メキシコ)	未定	代表派遣の取りやめ ※派遣候補者の都合による
4	国際学術会議 (ISC) 理事会	未定	パリ (フランス)	未定	代表派遣の取りやめ ※ISC 地域委員会代表への出席要請なし
5	IAP 理事会	未定	未 定	未定	代表派遣の取りやめ ※来年度に延期
6	S20 会合	未 定	未定 (サウジアラビア)	未定	代表派遣の取りやめ ※来年度に延期
7	STS フォーラム評議員会	未 定	未 定	未定	代表派遣の取りやめ ※日程合わず
8	Inter-Academy Seoul Science Forum(IASSF)2019	未定	ソウル (韓国)	未定	代表派遣の取りやめ ※主催者から出席要請なし

○今回、決定する2件（国際委員会国際会議主催等検討分科会決定、国際委員会承認）

※第277回幹事会（平成31年4月24日）にて「保留」とした会議の共同主催の可否の決定を行うもの。

会議名		開催予定情報				
追加	国際計測連合 第23回世界大会 XXIII IMEKO World Congress ■母体団体：国際計測連合 International Measurement Confederation (IMEKO) ■主催学会：公益社団法人計測自動制御学会	参加人数	国外	430	同伴者	35
			国内	520	同伴者	15
			合計	950	合計	50
		国数	[42カ国・地域]			
			○会議テーマ：「知能社会に向けた計測技術」 ○主要題目：「計測技術」「計量標準」「計量管理」「計測科学・工学」「IoT」「センサネットワーク」「サイバーフィジカルシステム」「身体機能計測」「環境計測」「ロボット応用計測技術」「計測の数学ツール」「食物・栄養の計測」「エネルギー応用・管理」等			
期間	2021年8月30日（月）～9月3日（金）[5日間]					
場所	パシフィコ横浜（神奈川県横浜市）					
間隔	3年ごと [日本開催：22年振り2回目]					
追加	第22回国際栄養学会議 IUNS 22nd International Congress of Nutrition ■母体団体：国際栄養科学連合 International Union of Nutritional Sciences (IUNS) ■主催学会：公益社団法人日本栄養・食糧学会、特定非営利活動法人日本栄養改善学会	参加人数	国外	2,000	同伴者	50
			国内	2,000	同伴者	50
			合計	4,000	合計	100
		国数	[80カ国・地域]			
			○会議テーマ：「栄養学の力で100億人を笑顔に！」 ○主要題目：「栄養学の最先端」「ライフステージをとおした栄養」「栄養と疾病管理」「公衆栄養と食環境」「機能性食品と生理活性成分」等			
期間	2021年9月14日（火）～19日（日）[6日間]					
場所	東京国際フォーラム（東京都千代田区）					
間隔	4年ごと [日本開催：46年振り2回目]					

○（参考）第277回幹事会（平成31年4月24日開催）にて既に決定されている5件

会議名		開催予定情報				
既決	国際がん支持療法学会2021 Annual Meeting of the Multinational Association of Supportive Care in Cancer 2021 (MASCC2021) ■母体団体：国際がん支持療法学会 Multinational Association of Supportive Care in Cancer (MASCC) ■主催学会：国際がん支持療法学会2021 国内組織委員会	参加人数	国外	900	同伴者	30
			国内	600	同伴者	20
			合計	1,500	合計	50
		国数	[80カ国・地域]			
			○会議テーマ：「世界中どこでも癌治療に支持療法が実施される社会を目指して」 ○主要題目：「抗癌剤誘発嘔吐事象の制御」「皮膚粘膜障害の予防と治療」「発熱性好中球減少の予防」「神経障害の治療」「骨関連事象の制御」「がんリハビリテーションの進歩」「悪液質への対処」「若年世代へのケア」「治療中の妊孕性温存」「がんサバイバーシップ」等			
期間	2021年6月24日（木）～27日（日）[4日間]					
場所	パシフィコ横浜（横浜市）					
間隔	毎年 [日本開催：初]					
既決	第12回教育におけるコンピュータに関する国際会議 World Conference on Computers in Education (WCCE2021) ■母体団体：情報処理国際連盟 技術委員会3（教育） International Federation for Information Processing (IFIP), Technical Committee 3 (education) ■主催学会：情報処理国際連盟 技術委員会3（教育）、一般社団法人情報処理学会 コンピュータと教育研究会	参加人数	国外	350	同伴者	30
			国内	250	同伴者	10
			合計	600	合計	40
		国数	[50カ国・地域]			
			○会議テーマ：「創造性と協働性が架橋する学習者の未来」 ○主要題目：「情報教育カリキュラムと教育手法」「コンピュータと創造性」「協働的学習のための情報学的アプローチ」「コンピュータサイエンス教育」「教育改善のための情報システム」「デジタル時代における市民性・倫理と教育」「SDGsに向けた教育的取り組み」等			
期間	2021年8月22日（日）～25日（水）[4日間]					
場所	広島国際会議場（広島県広島市）					
間隔	4年ごと [日本開催：初]					
既決	国際幹細胞学会国際シンポジウム2021 ISSCR International Symposium 2021 - Tokyo, Japan ■母体団体：国際幹細胞学会 The International Society for Stem Cell Research (ISSCR) ■主催学会：一般社団法人日本再生医療学会	参加人数	国外	300	同伴者	0
			国内	300	同伴者	0
			合計	600	合計	0
		国数	[30カ国・地域]			
			○会議テーマ：「基礎研究からクリニカルトランスレーショナルリサーチへ」 ○主要題目：「各国の最新の再生医療（幹細胞）研究」「各国の再生医療等に関する規制」「再生医療の社会実装」等			
期間	2021年9月1日（水）～9月3日（金）[3日間]					
場所	一橋講堂、学士会館（東京都千代田区）					
間隔	毎年 [日本開催：5年振り2回目]					
既決	第19回国際動脈硬化学会議 The 19th International Symposium on Atherosclerosis (ISA2021) ■母体団体：国際動脈硬化学会 International Atherosclerosis Society (IAS) ■主催学会：一般社団法人日本動脈硬化学会	参加人数	国外	2,000	同伴者	10
			国内	1,000	同伴者	10
			合計	3,000	合計	20
		国数	[100カ国・地域]			
			○会議テーマ：「動脈硬化を通して、健康長寿を実現する」 ○主要題目：「動脈硬化の診断と治療」「ガイドライン」「家族性高コレステロール血症と動脈硬化」「脂質異常症」「糖尿病と動脈硬化」「高血圧」「メタボリックシンドローム」等			
期間	2021年10月24日（日）～27日（水）[4日間]					
場所	国立京都国際会館（京都府京都市）					
間隔	3年ごと [日本開催：18年振り3回目]					
既決	第27回マグネット技術国際会議 27th International Conference on Magnet Technology (MT-27) ■母体団体：マグネット技術国際会議 国際組織委員会 MT International Organizing Committee ■主催学会：公益社団法人低温工学・超電導学会	参加人数	国外	450	同伴者	20
			国内	500	同伴者	10
			合計	950	合計	30
		国数	[24カ国・地域]			
			○会議テーマ：「マグネット技術：超電導・低温材料、冷却技術、応用システム」 ○主要題目：「高エネルギー物理学向け加速器マグネット」「核融合向けマグネット」「強磁場発生マグネット」「電力・エネルギー・輸送向けマグネット」「マグネット向け線材及び材料」「マグネット試験・解析・設計向けツール」「マグネット関連技術」等			
期間	2021年11月15日（月）～19日（金）[5日間]					
場所	福岡国際会議場（福岡県福岡市）					
間隔	2年ごと [日本開催：18年振り3回目]					

●令和2年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針（案）

令和2年〇〇月〇〇日
日本学術会議第〇〇〇回幹事会決定

国際学術プログラムであるフューチャー・アース（以下「フューチャー・アース」という。）の推進を図るため、日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規（以下「内規」という。）に基づき、令和2年度におけるフューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針を以下のとおり定める。

フューチャー・アースにおいては、日本学術会議が日本の代表機関として国際本部事務局の機能（日本支部）の一部を担っていること、また、日本学術会議連携会員が国際本部事務局日本支部事務局長を務めていることから、令和2年度の内規第51条の各区分における国際会議等への代表者の派遣は下記の考えに基づいて行う。

(1) 第1区分

- ・フューチャー・アースの国際的な推進体制の中心である諮問委員会（AC: Advisory Committee）、評議会（GC: Governing Council）、レビューパネル及び国際本部事務局の行う会議へ、国際本部事務局日本支部事務局長（連携会員）を含む会員等を派遣する。
- ・本年度、AC及びGCは各一回程度、国際本部事務局会合は数回程度の開催が見込まれる。

(2) 第2区分

- ・フューチャー・アースの実施に当たり、国際本部事務局及びアジア地域事務局が行う会議へ国際本部事務局日本支部事務局長（連携会員）を含む会員等を派遣する。
- ・具体的には、日本学術会議が国際本部事務局として運営の一部を担う予定であるグローバル研究プロジェクトに関する会議、タスクフォース及びKAN（Knowledge-Action Networks）に関する会議等への派遣を行う。
- ・上記については本年度それぞれ数回程度見込まれる。

(3) 第3区分

- ・フューチャー・アースに関する活動を広報周知するため、国際学術団体等が行う会議へ国際本部事務局日本支部事務局長（連携会員）を派遣する。
- ・上記に当たっては、国連の行う会議等の分野横断的、あるいは地域的な広がりがあるものを優先する。
- ・さらに、予算の状況に応じフューチャー・アースに関連するその他のグローバル研究プロジェクトの会議へ会員等を派遣する。

本基本方針に基づいて国際会議等への代表者の派遣を行う場合は、別添の様式にて事前に幹事会の議決に付すものとする。

令和2年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣

番号	国際会議等	会 期		開催地及び用務地	派遣候補者 (職名)	備 考
			計			

●令和2年度アジア学術会議に関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針（案）

〔令和2年〇〇月〇〇日〕
〔日本学術会議第〇〇〇回幹事会決定〕

アジア学術会議は、アジア域内での学術交流と協力を促進する基盤を提供し、全体論的な展望と構想を作り、その実現を諮ることを目的としており、その目的の達成は、アジア域内の各国において参加国間の連絡調整を行い、学術に関する研究発表及び討論等を行う会議を開催することにより行うこととなっている。

アジア学術会議においては、日本学術会議が事務局を担っていること、また、日本学術会議会員等が事務局長を務めていることから、令和2年度の国際会議等への代表者の派遣は下記の方針に基づいて行う。

(1) 第1区分

- ・アジア学術会議大会（国際シンポジウム、理事会、国際共同プロジェクト・ワークショップ等で構成）に、アジア学術会議事務局長を含む会員等を派遣する。

(2) 第2区分

- ・アジア学術会議の開催・運営に関する会議である、アジア学術会議役員会議等に、アジア学術会議事務局長を含む会員等を派遣する。
- ・次年度以降の開催準備に係る調整及び事前調査等に、アジア学術会議事務局長を含む会員等を派遣する。

(3) 第3区分

- ・アジア学術会議の加盟機関拡大のため、アジア学術会議事務局長を含む会員等を非加盟機関本部等に派遣する。
- ・上記については本年度数回程度見込まれる。

本基本方針に基づいて国際会議等への代表者の派遣を行う場合は、別添の様式にて事前に幹事会の議決に付すものとする。

令和2年度アジア学術会議関連会議等への代表者の派遣

番号	国際会議等	会 期		開催地及び用務地	派遣候補者 (職名)	備 考
			計			

令和元年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表派遣の変更について

以下のとおり、令和元年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表派遣の変更を行う。

	会議名称	派遣期間 (会期分)	開催地 (国)	派遣候補者 (職名)	内 容
1	フューチャー・アース諮問委員会 (Advisory Committee) 年次会合 2020 及びフューチャー・アース評議会 (Governing Council) 年次会合 2020	3月4日 ～ 3月6日	京都 (日本) ↓ パリ (フランス)	山極 寿一 第二部会員 (京都大学総長)	派遣の取りやめ ※開催地が京都からパリに変更になり、日程合わず
2	フューチャー・アース諮問委員会 (Advisory Committee) 年次会合 2020 及びフューチャー・アース評議会 (Governing Council) 年次会合 2020	3月4日 ～ 3月6日	京都 (日本) ↓ パリ (フランス)	武内 和彦 第二部会員 (公益財団法人地球環境戦略研究機関理事、東京大学未来ビジョン研究センター特任教授)	※開催地が京都からパリに変更になったためビデオ会議で参加
3	フューチャー・アース諮問委員会 (Advisory Committee) 年次会合 2020 及びフューチャー・アース評議会 (Governing Council) 年次会合 2020	3月4日 ～ 3月6日	京都 (日本) ↓ パリ (フランス)	春日 文子 連携会員 (国立研究開発法人国立環境研究所特任フェロー)	※開催地が京都からパリに変更になったためビデオ会議で参加

6. 学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等 【令和2年度第1四半期】

<概要>

1. 日本学術会議主催学術フォーラム

- (1) 経費負担を要するものは、原則として年間10回程度
 (2) 経費負担又は職員の人的支援を要するものは、四半期ごとに計3件まで
 (3) 土日祝日開催のものは、四半期ごとに2件まで

○今回提案【令和2年度第1四半期】 全2件

	提案番号	テーマ	開催希望日時	開催場所	経費負担	職員の 人的支援
1	提案 14 [p. 37-38]	学術振興に寄与する研究評価のあり方——日本学術会議提言に向けて（仮）	令和2年 5月24日 （日）	日本学術 会議講堂	要	要
2	提案 15 [p. 39-40]	オープンサイエンスの深化と推進に向けて（仮）	令和2年 6月3日 （水）	日本学術 会議講堂	要	要

（参考）-----

■今回提案を含めた合計数

1. 学術フォーラム（平日2件/土日2件） 全4件 残り：6件

（内訳）※現在の4件中、4件とも経費又は人的負担要

		第1四半期 （4月～6月）	第2四半期 （7月～9月）	第3四半期 （10月～12月）	第4四半期 （1月～3月）
学術フォーラム	（土日）	2			
	（平日）	2			
合計		4			

2. 土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等（学術フォーラム含む）全7件 残り：25件

（内訳）

		第1四半期 （4月～6月）	第2四半期 （7月～9月）	第3四半期 （10月～12月）	第4四半期 （1月～3月）
シンポジウム	第一部				
	第二部	4			
	第三部	1			

	若手アカデミー				
	課題別				
学術フォーラム（土日）		2			
	合計	7			

■承認済み案件一覧

1. 学術フォーラム

	テーマ	開催日時	開催場所	経費負担	職員の 人的支援
1	日本の学術の現状と展望—第6期科学技術基本計画に向けて—（仮）	令和2年 5月9日（土） 13:00～17:30	日本学術会議講 堂	要	要
2	拡がるスポーツ—東京オリンピック・パラリンピック後のスポーツを考える—（仮）	令和2年 6月18日（木） 13:30～16:30	日本学術会議講 堂	要	要
3					
4					
5					

日本学術会議主催フォーラム「学術振興に寄与する研究評価のあり方
——日本学術会議提言に向けて（仮）」の開催について（案）

1. 主 催：日本学術会議
2. 共 催：国立大学協会（予定）、大学共同利用機関法人人間文化研究機構
3. 後 援：文部科学省（予定）
4. 日 時：令和2年5月24日（日）13：00～18：00
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会等の開催：予定あり（科学者委員会研究評価分科会）

7. 開催趣旨：

研究評価の変化という近年の急速な変化に鑑み、学術の振興に寄与する研究評価のあり方はいかなるものかについて議論することが本フォーラムの目的である。

今日、研究評価は、学術行政上まったく新たな文脈に置かれるようになってい
る。個人の研究活動の評価を大学・研究機関の評価及び予算配分の決定に反映させ
るとともに、個人の勤務評価に直結させる方向が顕著になっているのである。その
方針は、大学改革と結びつけられながら、とくに国立大学法人に関して明確に打ち
出されている。このような取組は、国立大学法人にとどまらず、すべての大学に広
がる可能性がある。

本フォーラムでは、研究評価の指標（基準）策定に直接関わっている国立大学協
会及び人間文化研究機構との意見交換を通じて、学術の振興に寄与する研究評価の
あり方について議論する。そのさい、国際比較と若手研究者支援の視点を盛り込む
とともに、研究評価について評価機構・マスコミ・URA の立場からの意見も取り入れ
て検討したい。

科学者委員会研究評価分科会では、研究評価に関する提言をまとめる予定であ
る。本フォーラムでの意見交換と成果を反映した提言にしたいと考えている。

8. 次 第：（予定、交渉中のものも含む。）

- 13：00～13：05 開催挨拶 藤井良一（第三部会員・研究評価分科会副委員長・大学
共同利用機関法人情報・システム研究機構長）
- 13：05～13：15 来賓挨拶（2名程度） 文科省など
- 13：15～13：35 趣旨説明＋提言案紹介 三成美保（副会長・第一部会員・研究評価
分科会委員長・奈良女子大学副学長）

- 13：35～14：15 基調講演 学術振興に寄与する研究評価のあり方（会員予定）
- 14：15～14：35 報告1 機関評価に研究評価を適切に反映するには？（国大協関係者）
- 14：35～14：55 報告2 人文社会科学研究を公正に評価するシステム（人間文化研究機構関係者）
- 14：55～15：05 休憩
- 15：05～15：25 報告3 国際比較から見た日本の研究評価の課題
標葉隆馬（成城大学文芸学部マスコミュニケーション学科准教授）（予定）
- 15：25～15：45 報告4 若手研究者にとって望ましい研究評価システム
（若手アカデミー関係者）
- 15：45～16：15（各10分）さまざまな立場からのコメント
- コメント1 評価機構の立場から 竹中亨（特任連携会員・大学改革支援・学位授与機構研究開発部教授）
- コメント2 科学ジャーナリストの立場から（朝日新聞記者）（予定）
- コメント3 研究支援の立場から 神谷俊郎（京都大学 KURA）（予定）
- 16：15～16：30 休憩
- 16：30～17：55 パネル・ディスカッション「研究評価提言に向けて」
司会：林隆之（特任連携会員・政策研究大学院大学教授）
パネリスト：基調講演者＋報告者4名＋コメンテーター3名
- 17：55～18：00 閉会挨拶 武田洋幸（第二部会員・研究評価分科会幹事・東京大学大学院理学系研究科長・教授）（予定）
- 総合司会 木部暢子（第一部会員・人間文化研究機構国立国語研究所副所長・教授）

（下線の講演者は、学術会議関係者）

日本学術会議主催フォーラム
「オープンサイエンスの深化と推進に向けて（仮）」の開催について（案）

1. 主 催：日本学術会議
2. 日 時：令和2年6月3日（水） 時間未定
3. 場 所：日本学術会議講堂
4. 分科会等の開催：未定

5. 開催趣旨：

学術の成果をオープン化して広く共有することにより、研究の進展を加速し、学術的知見の導出の拠り所となる研究資料・データと研究成果の再現性を高めることを目的とした「オープンサイエンス」の方向性が世界的に注目されている。全ての学術における共通課題である再現性が、近年の情報技術によるデータ保存の拡大による、研究手法そのものの変革にも繋がる現状を踏まえ、オープンサイエンスの深化と推進のあり方が重要な視点となっている。

本フォーラムは、オープンサイエンスによるデータ駆動科学時代に向け、

- ・研究資料・一次データ等の実データの保存からのボトムアップの活動（各分野の状況の把握）
- ・トップダウンの研究データプラットフォームの在り方（将来に向けた基盤構築）
- ・研究データの相互利用のルールと戦略的取り組みによるオープンサイエンスの実現（オープンサイエンスのルール）

の視点から、各分野の講演者に話題提供を頂くと共に、人文・社会科学から自然科学・工学分野における学術の進化と、それらを亘る新しい科学の推進の在り方を議論する。

8. 次 第：（予定、交渉中のものも含む。）

- (1) 総括的オーバビュー 喜連川 優 国立情報学研究所（連携会員）
- (2) 地球科学分野 木村 学 東京海洋大学（第三部会員）（予定）
- (3) 農業分野 渋澤 栄 東京農工大学（第二部会員）（予定）
- (4) 医学分野 高木利久 富山国際大学（第二部会員）（予定）
- (5) 化学・薬学分野 未定
- (6) 人文社会科学分野 小林良彰 慶應義塾大学（連携会員）（予定）
- (7) プラットフォーム基盤 山地一禎 国立情報学研究所（予定）
- (8) データ相互利用の戦略 村山 泰哲 NICT（予定）
- (9) パネル討論 モデレータ 安達 淳 国立情報学研究所（連携会員）（予定）

(10) 総括

講演者全員

渡辺 美代子 JST (第三部会員)

(下線の講演者は、学術会議関係者)

公開シンポジウム

「共に生きるカー福祉教育のあり方を問う」の開催について

1. 主 催：日本学術会議社会学委員会社会福祉学分科会
2. 共 催：日本社会福祉系学会連合（予定）
3. 後 援：一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟、社会福祉法人全国社会福祉協議会、公益社団法人日本社会福祉士会、公益社団法人日本精神保健福祉士協会、公益社団法人医療社会福祉協会（いずれも依頼予定）
4. 日 時：令和2年5月16日（土）14：00～17：30
5. 場 所：東洋大学（予定）
6. 分科会等の開催：開催予定
7. 開催趣旨：日本学術会議社会福祉学分科会は、昨年、提言「社会的つながりが弱い人への支援のあり方について－社会福祉学の視点から－」を表出した（2018年9月13日）。
 提言では、過度な自己責任論が、社会福祉などによる支援へのつながりを阻害していることへの危惧を表明した。常に支援を受けないことが「自己責任」を果たすことではなく、必要な時は「支援」を利用しながら主体的に生活を維持・再建することこそが、真の「自己責任」なのである。この自らの人生に主体的であるという意味での「自己責任」を果たせるようすることこそが、学校教育等において求められている「生きる力」なのではないだろうか。そしてこの「生きる力」には主体的である力に留まらず、他者を排除したり、自らを社会から引きこもらせず、多様な他者との関係を形成する「共に生きる力」が求められている。これからの社会は、同一性と基盤とした排他的な社会ではなく、文化・国籍・性・能力などの多様性を容認し共生する社会に向かう必要性がある。そのためにもこうした「共に生きる力」の形成は、学校教育に留まらず、社会教育などを含めた「福祉教育」の大きな課題なのである。
 本シンポジウムでは、国際ソーシャルワーク学校連盟の前副会長で、2014年のソーシャルワークグローバル定義の改訂の委員長であったビシャンテ教授に国際的な「福祉教育」の動向を紹介いただくとともに、国内の様々な分野や場面で行われてきた「福祉教育」の到達点と課題を明らかにすることで、国民及び関係者に対してこの問題の重要性を喚起し、今後の「福祉教育」のあり方を検討したい。
8. 次 第：

14：00 開会のあいさつ 岩崎晋也（日本学術会議第一部会員、法政大学現代福祉学部教授、一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟副会長）

14：10 講演「エンパワーメントと福祉教育」

ビシャンテ・セポール（クワズール・ナタール大学（南アフリカ）名誉教授、スタヴァンゲル大学（ノルウェー）教授、アフリカソーシャルワーク連盟前会長、国際ソーシャルワーク学校連盟前副会長）

15：10－15：30 （ 休憩 ）

15：30 シンポジウム「共に生きるカー福祉教育のあり方を問う」

（司会）岩崎 晋也（日本学術会議第一部会員、法政大学現代福祉学部教授）

（コメンテーター）ビシャンテ・セポール（スタヴァンゲル大学教授）

（シンポジスト）原田 正樹（日本学術会議連携会員、日本福祉大学副学長・教授）

「日本における福祉教育の展開と課題」

和気 純子（日本学術会議連携会員、首都大学東京大学院人文科学研究科教授）

「多文化ソーシャルワークから見た福祉教育の展開と課題」

加瀬進（東京学芸大学特別支援科学講教授）

「インクルーシブ教育から見た福祉教育の展開と課題」

17：20 閉会のあいさつ 木原活信（同志社大学社会学部教授、日本社会福祉系学会連合会長）

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

（下線の講演者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム 「比較の中のアジアの行政」の開催について

1. 主 催：日本学術会議政治学委員会行政学・地方自治分科会
2. 共 催：日本行政学会（共同主催団体とする）
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和2年5月23日（土）午前9時半から11時半
5. 場 所：岡山大学（津島キャンパス）文学部・法学部・経済学部講義棟20番講義室
6. 分科会等の開催：開催予定

7. 開催趣旨：アジア諸国はそれぞれの歴史を積み重ねる中で、行政もまたそれぞれの経験を蓄積してきた。各国の行政学は、そうした実態を観察、分析するとともに、行政の改善にも関わってきた。各国の行政が抱える課題には、それぞれに固有のものもあれば、共通するものもあるだろう。アジア各国それぞれの行政と行政学の歩み、現状、今後の課題と展望を明らかにした上で、それらの比較を通じ、アジアに共通する「アジアの行政学」とその実務へのフィードバックの可能性を検討する

8. 次 第：

開会のあいさつ

城山英明（日本学術会議連携会員、東京大学大学院法学政治学研究科教授）

報告者

Alex Brillantes（フィリピン大学ディリマン校教授）

Sang-Chul Park（韓国産業技術大学教授）

大山耕輔（日本学術会議第一部会員、慶應義塾大学法学部教授）

討論者

工藤裕子（中央大学法学部教授）

司会者

北村亘（大阪大学法学研究科附属法政実務連携センター教授）

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

（下線の講演者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「現代社会とアディクション」の開催について

1. 主 催：日本学術会議基礎医学委員会神経科学分科会、臨床医学委員会アディクション分科会、同脳とこころ分科会
2. 後 援：日本生命科学アカデミー、(公財) 東京都医学総合研究所
3. 日 時：令和2年4月3日(金) 13:30~17:30
4. 場 所：日本学術会議講堂
5. 分科会の開催：開催予定(3分科会合同)
6. 開催趣旨：アディクションは、物質依存のみならず行動嗜癖も含み、近年では大きな社会問題となっており、その研究・対策の必要性が謳われているが、実態調査は不十分であり、実質的な対応はまだほとんどなされていない。アディクションの現状を正しく理解し、多岐にわたる問題点を把握することで、今日のアディクションに関する様々な問題を解決するための糸口を共有したい。
7. 次第：

司会：南 雅文
 (日本学術会議連携会員、北海道大学大学院薬学研究院教授)

井手 聡一郎
 (東京都医学総合研究所主席研究員)

13:30 開会の挨拶
池田 和隆
 (日本学術会議連携会員、東京都医学総合研究所参事研究員)

13:40 講演

 1. 池田 和隆 「アディクション問題克服に向けた学術活動のあり方」
 (日本学術会議連携会員、東京都医学総合研究所参事研究員)
 2. 伊佐 正 「依存の形成に関わる神経回路機構」
 (日本学術会議第二部会員、京都大学大学院医学研究科教授)
 3. 神尾 陽子 「臨床から見た子どものネット、ゲーム問題について」
 (日本学術会議第二部会員、発達障害クリニック附属発達研究所所長)

4. 樋口 進 「アディクションの予防と治療」
(久里浜医療センター院長)
5. 松本 俊彦 「薬物使用障害の実態と回復支援の課題」
(日本学術会議特任連携会員、国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部長)

16:00 パネルディスカッション

パネリスト

- 石塚 哲朗 (厚生労働省社会・援護局 障害保健福祉部精神・障害保健課
依存症対策推進室 室長)
- 重茂 浩美 (文部科学省科学技術・学術政策研究所科学技術予測センター 上
席研究官)
- 川人 光男 (日本学術会議第二部会員、国際電気通信基礎技術研究所脳情報
通信総合研究所長)
- 菊地 哲朗 (日本学術会議連携会員、大塚製薬株式会社医薬品事業部フェロ
ー)
- 宮田 久嗣 (日本学術会議特任連携会員、東京慈恵会医科大学教授)

17:20 閉会の挨拶

山脇 成人

(日本学術会議第二部会員、広島大学脳・こころ・感性科学研究センター長、
同大学特任教授)

8. 関係部の承認の有無：第二部承認

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム「チバニアン、その学術的な意義」の開催について

1. 主 催：日本学術会議地球惑星科学委員会 IUGS 分科会
2. 共 催：日本地球惑星科学連合、日本地質学会、日本古生物学会、東北大学総合学術博物館（依頼予定）
3. 後 援：（調整中）
4. 日 時：令和2年4月6日（月）13：00～17：00
5. 場 所：日本学術会議講堂、外1室
6. 分科会等の開催：開催予定

7. 開催趣旨：

千葉県市原市の地層「千葉セクション」が、国際基準の地層境界である「国際境界模式層断面とポイント（GSSP）」に認定され、約77万4千年前～約12万9千年前の地質時代の名称が「チバニアン」と名づけられることになった。世界で認定された74カ所に、初めて日本の地層が選ばれたことになる。今回の決定に至る過程には科学者の努力だけでなく、地層が存在する市原市の協力も大きく貢献している。

本シンポジウムでは、高い関心を集めているチバニアンの決定における過程を振り返り、背景となるGSSPとは何かを含めて、その学術的な意義を紹介する。また、チバニアンの決定が及ぼす社会的な重要性についても議論する。

8. 次 第：

挨拶 13：00-13:10 武内和彦（日本学術会議副会長）、山極壽一（日本学術会議会長、依頼中）

司会：西 弘嗣（日本学術会議連携会員、IUGS 分科会委員長、東北大学学術資源研究公開センター教授）

13：10-13:40 Chibanian GSSP 承認に至る IUGS の役割と我が国の地質学研究における意義：シンポジウム趣旨説明に代えて

北里 洋（日本学術会議連携会員、IUGS 理事、国立大学法人東京海洋大学特任教授）

13：40-14:10 「第四紀の区分について」

齋藤 文紀（日本学術会議連携会員、国立大学法人島根大学エスチュアリー研究セン

ター センター長・教授)

14 : 10-14:40 「チバニアン GSSP の特徴と、その学術上の意義」

岡田 誠 (茨城大学理学部教授)

14 : 40-15:10 「チバニアン時代の環境」

亀尾 浩司 (理学研究院地球科学研究部門准教授)

15:10-15:25 (休憩)

15 : 25-15:55 「基礎自治体の立場からの学術研究支援について (仮)」

小出 譲治 (市原市長)

15 : 55-16:45 総合討論

(1) 川辺 文久 (部科学省初等中等教育局教科書調査官)

: 地学教科書に於ける取り扱いについてコメント (10 分)

(2) (調整中)

: 地球に生きる素養を身につけていることの重要性について (10 分)

16:45-17:00 閉会にあたって

木村 学 (日本学術会議第三部会員、国立大学法人東京海洋大学資源環境学部特任教授)

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

(下線の講演者等は、主催委員会 (分科会) 委員)

公開シンポジウム「放棄農地を蘇らせる自然再生」の開催について

1. 主 催：日本学術会議統合生物学委員会・環境学委員会自然環境保全再生分科会
2. 共 催：久保川イーハトーブ自然再生協議会・久保川イーハトーブ自然再生研究所
3. 後 援：環境省（予定）・岩手県（予定）・一関市（予定）・岩手日日新聞社（予定）・
（株）一関ケーブルネットワーク（予定）
4. 日 時：第一部 令和2年5月22日（金）：14：00～18：00
第二部 令和2年5月23日（土）：10：30～12：30
5. 場 所：知勝院 玉叢庵（〒021-0102 岩手県一関市萩荘栃倉 73-193）および近隣の久保川イーハトーブ自然再生事業地
6. 委員会等の開催：開催予定
7. 開催趣旨：世界に先駆けた人口減少・高齢化と大都市圏への若年人口の集中が進む日本の農業地域や中山間地域では、利用・管理が放棄された農地・林地が急増し、さまざまな問題が生じている。周囲の土地利用状況と植生分布、放棄されるまでの農地整備と農地としての利用実態に応じて、高窒素性の侵略的外来植物が繁茂することは、周辺地域の農業と生物多様性に重要な負の影響を及ぼす。その影響は1) 侵略的外来植物のシードソースとなる、2) 外来牧草が斑点米カメムシの発生源となって生物多様性やヒトの健康への影響が懸念されるネオニコチノイド系農薬の散布を招く、3) ニホンジカやイノシシなど野生動物の餌場や隠場となることで農業被害等の被害の間接的原因ともなる、など多岐にわたる。このシンポジウムでは、農業生産という経済的な動機のみからでは再生・活用が困難な放棄農地を、自然再生推進法にもとづく自然再生事業により生物多様性豊かな二次自然として再生し、自然葬（樹木葬）墓地や自然環境学習のための湿地として活用する試みを行っている久保川イーハトーブ自然再生事業地をモデルとして取りあげ、このような自然再生の意義と展望を考える。第一部では、現場で生物多様性保全再生効果および地元活性化に向けた効果の検証を共同で行い、第二部では、自然環境保全再生分科会委員の幅広い専門領域の視点からこのような取り組みの可能性および課題について論じる。
8. 次第
第一部 令和2年5月22日
14:00～14:10 開会の挨拶：
鷺谷 いづみ（日本学術会議連携会員、東京大学名誉教授）

- 14:10～16:50 久保川イーハトーブ自然再生における放棄農地、放棄林地の再生状況について：現場での検証・討議
ファシリテーター 千坂 げんぼう（久保川イーハトーブ自然再生事業協議会会長）
佐藤 良平（久保川イーハトーブ自然再生研究所研究員）
- 16:50～17:10 休憩
- 17:10～17:40 自然再生事業と地元：伝統文化の保存・再生の視点から
（達古袋神楽保存会）

第二部 令和2年5月23日

- 10:30～11:00 趣旨説明「放棄農地を蘇らせる自然再生事業」：
鷺谷 いづみ（日本学術会議連携会員、東京大学名誉教授）
- 11:00～12:10 リレートーク「放棄農地・林地の自然再生を考える」：
① 保全生態学分野から 吉田 丈人（日本学術会議連携会員、総合地球環境学研究所准教授・東京大学大学院総合文化研究科准教授）
② 景観生態学分野から 森本 淳子（日本学術会議連携会員、北海道大学大学院農学研究院准教授）
③ 農村計画学分野から 一ノ瀬 友博（日本学術会議特任連携会員、慶應義塾大学環境情報学部教授）
④ 地盤学分野から 安福 規之（日本学術会議連携会員、九州大学大学院工学研究院社会基盤部門教授）
⑤ 農地の総合的ガバナンスの視点から 豊田 光世（日本学術会議連携会員、新潟大学朱鷺・自然再生学研究センター准教授）
・・・他、分科会委員からの報告とそれにもとづく情報交換
- 12:10～12:25 閉会挨拶：
千坂 げんぼう（久保川イーハトーブ自然再生事業協議会会長）

9. 関係部の承認の有無：第二部、第三部承認

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開ワークショップ「公民学連携による地域将来像の構想：
豊橋の未来をデザインする 100 人ワークショップ（予定）」の開催について

1. 主 催：日本学術会議若手アカデミー
2. 共 催：豊橋まちなか会議（予定）
3. 後 援：無し of 予定
4. 日 時：令和 2 年 7 月 11 日（土）13:00～17:30（予定）
5. 場 所：イノチオホール（愛知県豊橋市向草間町字北新切 95）
※子育て世代の方の参加を促すために託児書の設置を検討中。
6. 分科会等の開催：開催予定
7. 開催趣旨：
この先の未来でわたしたちはどのような地域社会に生きるのでしょうか？また大学は地域社会でどのような役割を果たしうるのでしょうか？本ワークショップは、豊橋・愛知の若手の実践者（市民、企業人、行政人など）と研究者（大学人）が一堂に会し、自分ごととして地域の将来像を考えます。
経済や社会のあり方、産業構造が急速に変化する時代において、「地域」のあり方は大きく変容しています。地域の運営はもはや行政だけの役割ではなく、市民や企業人、大学人などさまざまな関係者が将来像を共有し、ともに取り組むことが不可欠です。また「大学」は国際競争にさらされる中、国内の少子化に伴う経営課題に直面し、いかに生き残るかが模索されています。地域社会に寄り添い、地域にいかに貢献しうるか、大学の存在意義が問われています。こうした地域と大学の未来を考える上で、同時代にある世界と緊密に結びつく中でそれぞれが、また互いの関係が「つながり」や「らしさ」をいかに生み出しうるかが重要な視点ではないでしょうか。
豊橋は東三河の中心都市として栄えてきた。東京と大阪の中央に位置し国内の交通結節点であり、また、自動車輸入が全国一の交際貿易港を有するなど世界とつながっている。また、日本の「モノづくり」を象徴する企業が集積する一方、豊かな水と肥沃な土壌に支えられた国内有数の農業地域でもあり、総じて農業・工業・商業のバランスが取れた地域である。人口減少・少子高齢化の中で地域の活力は徐々に失われており、公・民・学が連携して、いかに地域資源を引き出し、デザインし、より魅力的なものにしていくか、未来をともにデザインしていく必要があります。前半では若手の実践者と研究者の事例報告を通じて、「つながり」や「らしさ」をキーワードに、地域と大学それぞれ、また互いの関係について意見交換し、後半では市民 100 人ワークショップを通じて豊橋の未来を描いていきます。
8. 次 第（予定）：
13:00 開会挨拶
神野 吾郎（豊橋商工会議所会頭、豊橋まちなか会議会長）

13:10 趣旨説明

岸村 顕広（日本学術会議連携会員、若手アカデミー代表、九州大学大学院工学研究院応用化学部門・九州大学分子システム科学センター准教授）

13:20 挨拶

調整中

※地域と大学の望ましい関係、若者が未来を語ることについてなど、若者、地域、大学、未来、地方などをキーワードに応援の言葉を頂く予定。

13:30-14:40 事例発表（若手の実践者・研究者 6～8 名程度）

埴淵 知哉（日本学術会議特任連携会員、若手アカデミー会員、中京大学国際教養学部教授）

「研究は「どこでもできる」のか？地域と学術のより良い関係性を考える」
（仮）

駒木 伸比古（愛知大学教授）（予定）

「地域特性を活かしたまちづくり」（仮）

大村 廉（豊橋技術科学大学准教授）

「情報技術の発展は地域をどう変えるか」（仮）

稗田 睦子（豊橋技術科学大学准教授）（予定）

「人が健康になるまち」（仮）

吉開 仁紀（豊橋市市役所職員、道の駅とよはしの副駅長）（予定）

「農業で地域活性」（仮）

西堀 泰英（豊田都市交通研究所主席研究員）

「自動運転がつくる未来の社会」（仮）

〇〇〇〇（イノチオ女性研究者）（予定）

「花を咲かせるまち」（仮）

15:00-17:30 豊橋市民 100 人ワークショップ＜豊橋駅前周辺エリアの将来像を描く＞

全体ファシリテーター：小野 悠（日本学術会議連携会員、若手アカデミー会員、豊橋技術科学大学大学院工学研究科講師）

挨拶・趣旨説明（10分）

田島 啓行（中部ガス不動産）

豊橋まちなか会議と対象エリアの紹介（20分）

小川 直哉（豊橋駅前大通二丁目地区市街地再開発組合事務局）

アイスブレイク（10分）

グループワーク（40分）

8人×12グループ程度

グループテーマ：暮らし、農業、ものづくり、健康、交通、子ども、文化・芸術など

グループファシリテーター：TMCメンバー＋専門家（豊橋技科大／若手アカデミー会員）＋学生

共有＋まとめ（40分）

コメント（30分）

コメンテーター：神野 吾郎、寺嶋 一彦、行政（県・市）（予定）

コーディネーター：高山 弘太郎（日本学術会議連携会員、若手アカデミー会員、豊橋技術科学大学エレクトロニクス先端融合研究所教授・愛媛大学農学研究科教授）

17:30 閉会挨拶

寺嶋 一彦（豊橋技術科学大学長（次期）、豊橋まちなか会議理事）

（下線の登壇者は、主催委員会委員）